

第3章 大野市の歴史文化の特徴と概要

第1節 文化財の概要

1. 大野市の文化財の概要

(1) 自然と関わりが深い暮らし

国指定天然記念物「本願清水イトヨ生息地」(大野地区)や国指定天然記念物「専福寺の大ケヤキ」(上庄地区)に代表されるように、豊かな自然環境に恵まれた本市は、その実りを享受し、古くからさまざまな活動が営まれてきました。一方で、豪雪地帯に位置することから建造物の雪害対策は重要でした。特に屋根雪下ろしが容易ではない蔵に対しては、「頼杖」と呼ばれる部材を設置して、軒の折損を防いでいました。「大野蔵」とも別称されるこの蔵は、大野を特徴づける景観の一つになっています。

(2) 大火と文化財建造物

江戸から明治にかけて数度の大火に見舞われた大野地区では、明治をさかのぼる建造物は少なく、指定を受けている国指定重要文化財「旧橋本家住宅」(上庄地区)、県指定有形文化財「南専寺山門」(富田地区)、市指定有形文化財「大野市民俗資料館」(大野地区)、市指定有形文化財「伝 越前大野城不明門」(乾側地区)のうち、大野市民俗資料館を除く3棟がそれぞれ上庄地区・富田地区・乾側地区に建っていることも、そうした経緯によるものです。一方で、明治以降も城下町としての繁栄を引き継いだ大野地区の中心市街地には、大火後の建築による国の登録有形文化財建造物が集中しています。

(3) 大野の美術工芸資料

本市は戦災や大規模な震災などに遭っていないことから、美術工芸資料は多く残されており、特に寺院と神社に所蔵されています。内容は多岐にわたりますが、本尊像や祖師像など宗教関連資料の他、江戸初期の岩佐又兵衛の作品なども所蔵され、寺社が担っていた地域文化の担い手としての役割が良く現れています。また、宝慶寺(上庄地区)の県指定有形文化財「絹本著色 道元禅師図像」や善導寺(大野地区)の市指定有形文化財「絹本 土井利忠筆菊花図幅」、柳廼社(大野地区)の「絹本著色 土井利忠画像」と「大野丸船図絵馬」、洞雲寺(大野地区)の市指定有形文化財「観音菩薩立像」は、美術工芸資料としての他に、その寺社の来歴を物語るものとしても貴重です。また、富田地区に点在する地藏群は、旅人が狐に騙されるのを防ぐために建てられたと言い伝えられており、かつて広がっていた原野と、そこを横断する美濃街道の様子を今に伝えています。

(4) 京文化を吸収して発展した大野の芸能

朝日(和泉地区)の「青葉の笛」は、平安末期に平治の乱に敗れて都から逃れてきた源義平(頼朝の長兄)と里の娘との悲恋を伝えるもので、笛の演奏活動を通じた市民活動も盛んであり、篠笛は当地区を特徴づけるアイテムの一つになっています。また、県指定無形民俗文化財「神子踊」、県指定無形民俗文化財「平家踊」、県指定無形民俗文化財「扇踊」は平家の落人に由来するという説があり、大野市南部における源氏と平氏にまつわる文化圏を思わせます。

(5) 山城から見える大野の地理的重要性

鎌倉時代末期の元弘の乱では、北条氏の一族である淡河右京亮時治が牛ヶ原の地頭として「牛ヶ原城」(乾側地区)を拠点に戦いました。また、市指定史跡「戌山城址」(乾側地区)は室町幕府の管領家の一族・斯波氏の築城と伝わっており、以後、市指定史跡「亥山城址」(大野地区)や市指定史跡「小山城址」(上庄

地区)とともに大野郡統治の拠点となりました。「戌山城」は戦国時代には朝倉氏(大野郡司)の居城となり、畝状堅堀などが整備されました。朝倉氏滅亡後、織田信長の家臣として大野郡を与えられた金森長近も、当初は「戌山城」を居城としていました。このように、中世の大野が中央権力や有力武将に近い武将によって治められているのは、宗教都市を築き大きな軍事力を有した平泉寺(勝山市)への抑えと、美濃街道の越前側の玄関口となる立地によると考えられ、こうした山城の存在は大野の重要性を物語っています。

(6) 水に由来する「食文化」

経ヶ岳の噴火で流れ出した黒ボク土壌を含む、豊穡で水はけの良い扇状地が広がる上庄地区では、里芋が特産として栽培され、「上庄さといも」(上庄地区)としてブランド化されています。一方、大野盆地の下流域に当たる下庄地区では、豊かな湧出水が茄子の栽培に向いており、同じく「中野なす」(下庄地区)としてブランド化されています。

大野盆地内では豊かな湧水を生かして醸造が行われていますが、硬度が低い「軟水」であることから、醸される「日本酒」は香りが高く、また、「味噌」や「醤油」はその風味が損なわれにくいいため、それらを使って作られる「煮物」は、大野の食生活を豊かにしました。近年、大野の醤油の魅力を生かした、「醤油カツ丼」が新しい郷土食として開発されています。

(7) 歴史に由来する「食」

織田信長から大野郡を与えられた金森長近は、かねてより大野郡を通過する交易路として重要視されていた「美濃街道」を横町・五番町・七間町・一番町(本町)に通し、城下町の商業発展を促しました。なかでも七間町は商業の中心地として位置づけられ、開かれる市には、江戸時代を通じて大野の各地から特産物が集まりました。並ぶ山の幸、田畑の実り、川の漁獲物は地域住民の食生活に大きく影響を及ぼし、大野の食文化を形成しました。明治以降、市は朝に限定して開かれるようになり、今に「七間朝市」(大野地区)として継続しています。

他に、大野の食を特徴づけるものに「半夏生さば」(市内全域)があります。江戸時代、現在の越前町に飛地を持っていた大野藩では、農繁期がひと段落する半夏生の日に焼鯖を食べる風習が生まれました。「半夏生さば」(市内全域)が始まった経緯は諸説ありますが、上級藩士による鯖の大量の注文や、田植え従事者への「鯖代」の支給が古文書に記録されています。なお、「半夏生さば」(市内全域)の食文化は令和4年(2022)3月に文化庁の「100年フード」(伝統の100年フード部門～江戸時代から続く郷土の料理～)に認定されています。

大野を取り巻く山地では古くから鉱山開発が行われ、「面谷銅山」(和泉地区)から産出する銅鉱は、幕末期の藩政改革の重要な財源となりました。鉱山開発は明治以降も行われ、ホルモン料理「とんちやん」は、鉱夫が手早くスタミナを摂るために定着したと言われています。

(8) 信仰

大野での古代祭祀の様子を物語る遺構・遺物は確認されていませんが、「式内社」に磐座信仰が認められることから、古くから自然を崇拝する信仰が行われていたと思われます。地理的条件から、「山」が信仰対象となっていたようで、平安時代になると、荒島岳に対する信仰が認められ、「荒島神社」(上庄地区)が創建されました。こうした原始的な山岳信仰に由来する「白山信仰」は、各地の「白山神社」をはじめ、関連する遺構や遺物が確認されており、大野の信仰を特徴付けています。

鎌倉時代、寂庵によって曹洞宗寺院「宝慶寺」(上庄地区)が開かれますが、師である如浄禅師の教えに従い、教線を拡大することはありませんでした。室町時代に蓮如によって越前に浄土真宗が広められる

と、大野にも多くの真宗寺院や道場が建てられ、民衆の生活と仏教が密接に関わるようになりました。

道場や各地区の神社は地域社会における集会施設としての役割を持つようになり、「里神楽」や「謡講」など、信仰や娯楽による伝統芸能が生まれました。

(9) 大野に残る太古の記憶

本市には、五箇地区・和泉地区を中心に古生代から中生代にかけての地層が分布しており、新種の化石や恐竜化石など全国的に貴重な化石が発見されています。

2. 指定等文化財

令和7年(2025)4月時点で、市域には指定・登録文化財が計145件あります(詳細は資料編12を参照)。このうち国指定が4件、国登録が15件、県指定が20件、市指定が106件となっています。文化財の種別ごとに見ると、有形文化財は建造物20件、美術工芸品91件(絵画17件、彫刻20件、工芸品6件、書跡12件、典籍3件、古文書19件、考古資料11件、史料3件)です。民俗文化財は有形民俗文化財1件、無形民俗文化財5件です。記念物は遺跡14件、名勝地1件、動物、植物、地質鉱物13件があり、一方で無形文化財、文化的景観、伝統的建造物群、文化財の保存技術は0件となっています。

表8 指定・登録文化財の件数内訳

(令和7年(2025)4月現在)

累計・種別		国指定	国登録	国選択・選定	県指定・選定	市指定	合計	
有形文化財	建造物	1	15	—	1	3	20	
	美術工芸品	絵画	0	0	—	9	8	17
		彫刻	0	0	—	1	19	20
		工芸品	0	0	—	0	6	6
		書跡	0	0	—	2	10	12
		典籍	0	0	—	0	3	3
		古文書	0	0	—	0	19	19
		考古資料	0	0	—	0	11	11
歴史資料	0	0	—	0	3	3		
無形文化財	演劇・音楽	0	0	0	0	0	0	
	工芸技術	0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形民俗文化財	0	0	—	0	1	1	
	無形民俗文化財	0	—	0	3	2	5	
記念物	遺跡(史跡)	0	0	—	1	13	14	
	名勝地(名勝)	0	0	—	1	0	1	
	動物、植物、地質鉱物(天然記念物)	3	0	—	2	8	13	
文化的景観		0	—	0	—	—	0	
伝統的建造物群		0	—	0	—	—	0	
文化財保存技術		0	—	0	0	—	0	
合計		4	15	0	20	106	145	

- 有形文化財** ①建造物 ②美術工芸品…絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料
- 無形文化財**…演劇、音楽、工芸技術など
- 民俗文化財** ①有形民俗文化財…無形民俗文化財に用いられる衣服、器具、家屋など
②無形民俗文化財…衣食住・生業・信仰・年中行事などに関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術
- 記念物** ①遺跡…貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
②名勝地…庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳など
③動物、植物、地質鉱物
- 文化的景観**…地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地
- 伝統的建造物群**…周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群
- 文化財の保存技術**…文化財の保存に必要な材料や用具の生産・製作、修理、修復の技術など
- 埋蔵文化財**…土地に埋蔵されている文化財

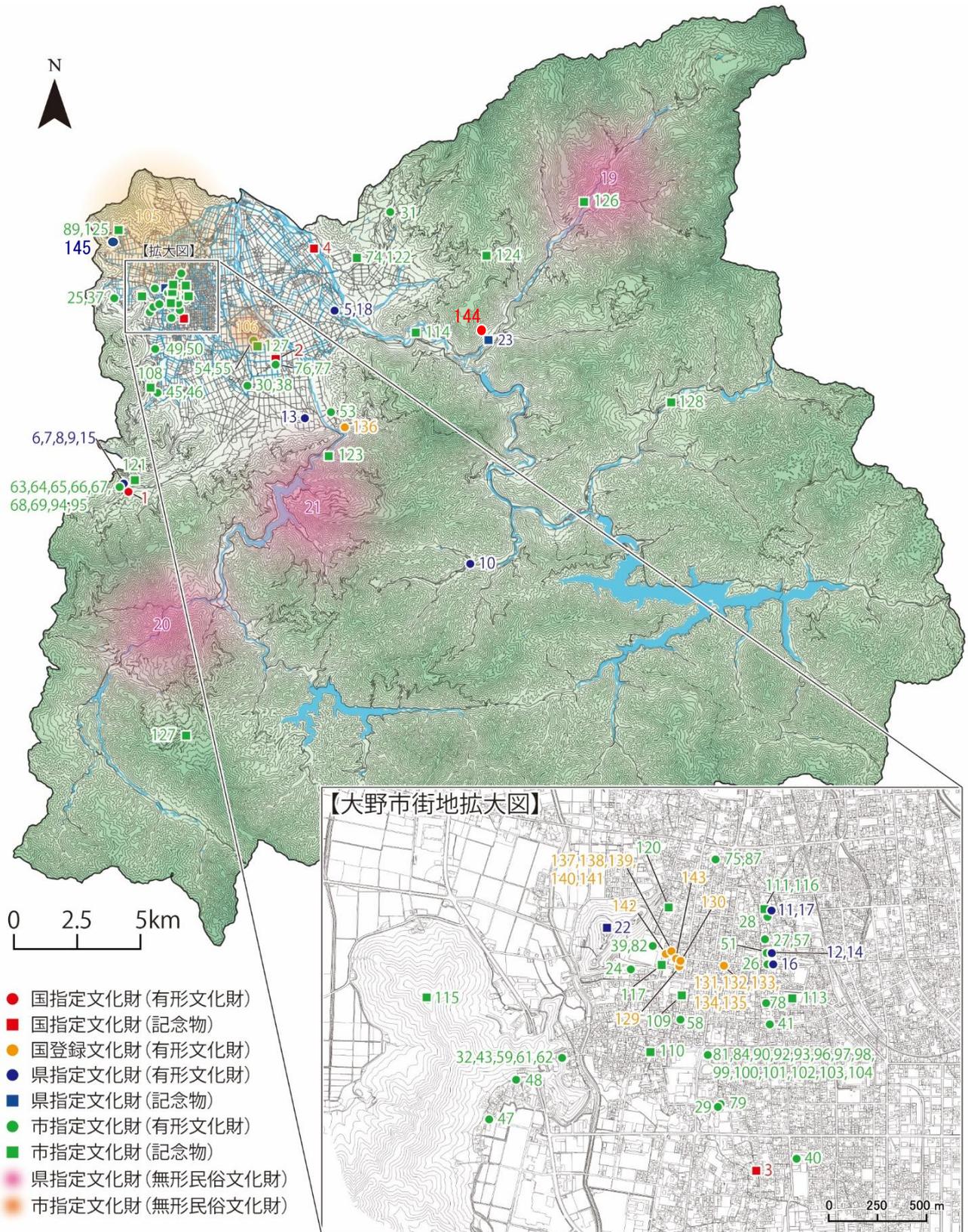


図 25 指定等文化財の分布 ※図内の数字は、資料編 12 の通し番号を示しています。
(背景図に基盤地図情報を使用)

3. 未指定文化財

(1) 未指定文化財の把握

指定や登録、独自の制度、文化庁以外の省庁などから選定された文化財の他にも、本市の歴史文化を特徴付ける重要な文化財が数多く存在しています。未指定文化財の把握を行うために、以下の方法で収集を行いました。

- 既存の文献資料による収集（令和元年度（2019年度）～令和3年度（2021年度））
『大野市史』をはじめ、これまでに刊行された各種資料や報告書などを参照し、未指定文化財の収集作業を行いました。
- ワークショップや聴き取りによる収集（令和元年度（2019年度）～令和3年度（2021年度））
市内全地区の公民館の他、集会所などでワークショップの実施や聴き取りにより、地域内の未指定文化財の収集作業を行いました。
- 神像・仏像調査による収集（令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度））
令和4年度より、主に神像仏像を対象とする市内寺社の^{しつがい}悉皆調査を開始し、書面調査に回答のあった寺社を中心に一次（現状把握）調査、専門家による二次（詳細）調査を実施しました。（※当調査は令和7年度以降も実施）

令和7年（2025）4月現在、収集した未指定文化財は、1,413件となっています（詳細は資料編19を参照）。場所が特定できないものと複数の地区にまたがるものを除く、未指定文化財の件数内訳は表9と図26のとおりです。

文化財の種別ごとに見ると、有形文化財は建造物333件、美術工芸品804件（絵画135件、彫刻237件、工芸品71件、書跡21件、古文書286件、考古資料5件、歴史資料49件）です。民俗文化財は有形民俗文化財27件、無形民俗文化財106件です。記念物は遺跡53件、名勝地18件、動物、植物、地質鉱物30件です。

文化財保護法に規定のある類型には該当しませんが、本市の歴史文化を特徴付ける重要な文化財を「その他」（^{しょうず}景観、清水・水路）として分類しました。「その他」の文化財は42件となっています。

(2) おおの遺産など

未指定文化財の保存・継承に向け、本市は独自の制度として「大野市^{ゆい}結の^{くに}故郷伝統文化伝承条例」を平成26年（2014）に制定し、地域に根付いた年中行事や伝統芸能、風習・^{なりわい}生業などを「おおの遺産」として認証しています。令和7年（2025）4月現在の認証件数は28件です（詳細は資料編13を参照）。

また、文化庁以外の省庁と団体の制度により、6件が選定されています（詳細は資料編14を参照）。

表9 収集した未指定文化財の件数内訳

類型・種別		大野	下庄	乾側	小山	上庄	富田	阪谷	五箇	和泉	西谷	複数区 など	全域	合計	
有形文化財	美術工芸品	建造物	93	60	31	22	44	41	27	9	5	0	1	0	333
		絵画	12	1	1	0	121	0	0	0	0	0	0	0	135
		彫刻	14	4	1	10	161	29	6	12	0	0	0	0	237
		工芸品	23	1	0	2	42	1	0	0	0	1	0	1	71
		書跡	14	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	21
		古文書	114	44	13	12	43	32	19	1	6	1	1	0	286
		考古資料	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
歴史資料	2	0	0	0	38	4	0	5	0	0	0	0	49		
民俗文化財	有形	衣服	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11
		民具	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
		芸能用具	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	無形	食文化	0	1	0	2	3	0	0	2	27	0	2	29	66
		生業	0	0	0	0	2	1	0	0	2	0	0	1	6
		風俗慣習	6	3	1	3	2	1	0	1	1	0	0	0	18
	民俗芸能	3	0	0	2	2	1	0	3	3	1	0	1	16	
記念物	遺跡（史跡）	8	2	1	2	15	6	6	6	2	5	0	0	53	
	名勝地（名勝）	2	0	1	2	2	1	4	5	0	0	1	0	18	
	動物、植物、地質 鉱物（天然記念物）	1	2	0	2	2	3	0	0	20	0	0	0	30	
	その他	景観	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	17
	清水・水路	15	2	2	2	1	0	1	0	2	0	0	0	25	
合計		339	121	51	61	484	121	64	44	69	7	7	45	1,413	

※「複数区など」は場所が特定できないもの、複数の地区にまたがる文化財です。

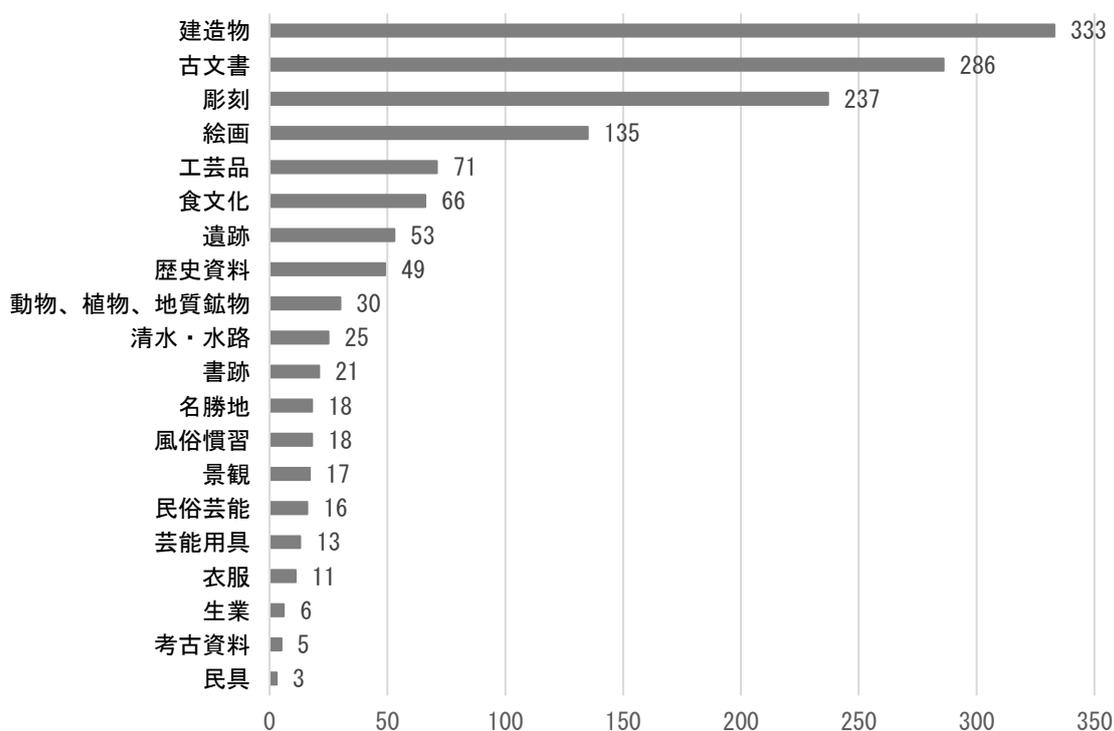


図26 未指定文化財種別件数

(3)有形文化財

把握した未指定文化財 1,413 件のうち、有形文化財は 1,137 件（80%）と最も多く、その中でも、建造物は 333 件（全未指定文化財の 24%）、古文書は 286 件（全未指定文化財の 20%）と高い数値となっています（詳細は表 9 を参照）。

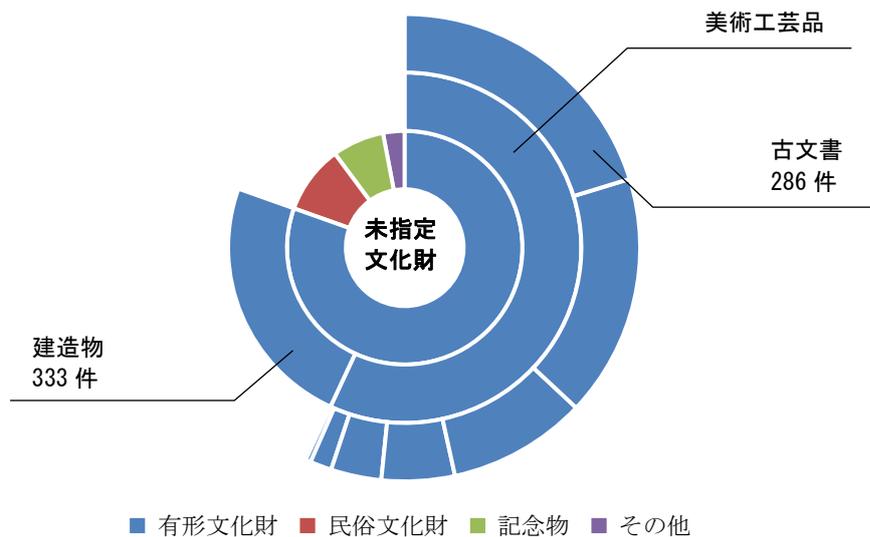


図 27 未指定文化財のうち、美術工芸品（建造物、古文書）の占める割合

① 建造物

建造物は、昭和 40 年代から全国的に地方都市や農村の近代化が進んだために伝統的な建造物が次々と建て替えられていったことを受け、国をはじめ各自治体や教育・研究機関においてその保存と研究の重要性がいち早く認識されたことと関係します。本市では、昭和 43 年（1968）の「民家緊急調査」（文化庁の補助事業として福井県が実施。調査報告は『福井県の民家 昭和 44 年度 -民家緊急調査報告書-』として発刊）を皮切りに、歴史的建造物の調査が行われています。調査規模の大きいものとしては、平成 10 年度（1998 年度）に財団法人日本ナショナルトラスト（現在は公益財団法人）が実施した町家調査（調査報告は『越前大野の城下町と町家』として発刊）と、平成 18 年度（2006 年度）から平成 20 年度（2008 年度）にかけて大野市教育委員会が実施した歴史的建造物の総合調査（調査報告書は未公刊）が挙げられます（詳細は第 4 章表 13 を参照）。こうした調査は橋本家住宅の重要文化財指定や、旧内山家住宅の国の文化財原簿への登録といった成果につながっている他、指定などには至らないまでも、所有者（居住者）にその価値の再認識を促しています。

しかし、進行する少子化・高齢化により、所有者の建造物に対する維持管理能力が低下している他、所有者の転居や後継となる近親者の市外居住などにより、家屋を維持すること自体の認識が薄らいできています。また、維持・修理に要する費用負担も大きく、上記調査の対象となった家屋なども例外とはならず、取り壊しが進んでいます。

② 古文書

旧大野郡関係の古文書は、『大野市史』（昭和 50 年（1975）事業開始）や『福井県史』（昭和 53 年（1978）事業開始）の編纂事業によって調査が行われました。本市では、調査・撮影した古文書を複製本として整理、目録を作成し、令和 6 年（2024 年）5 月より、公開の許諾が済んだものから順次一般公開しており、令和 7 年（2025）4 月現在において、全複製本 3,018 冊（383 件 42,273 点）のうち、約 77%にあたる 2,067 冊が公開されています。複製本に整理した古文書のうち、年次が明記されている 30,942 点（おおよそ 73%）を概観すると、幕末期（19 世紀後半）が多く残されていることが分かります（図 28 参照）。

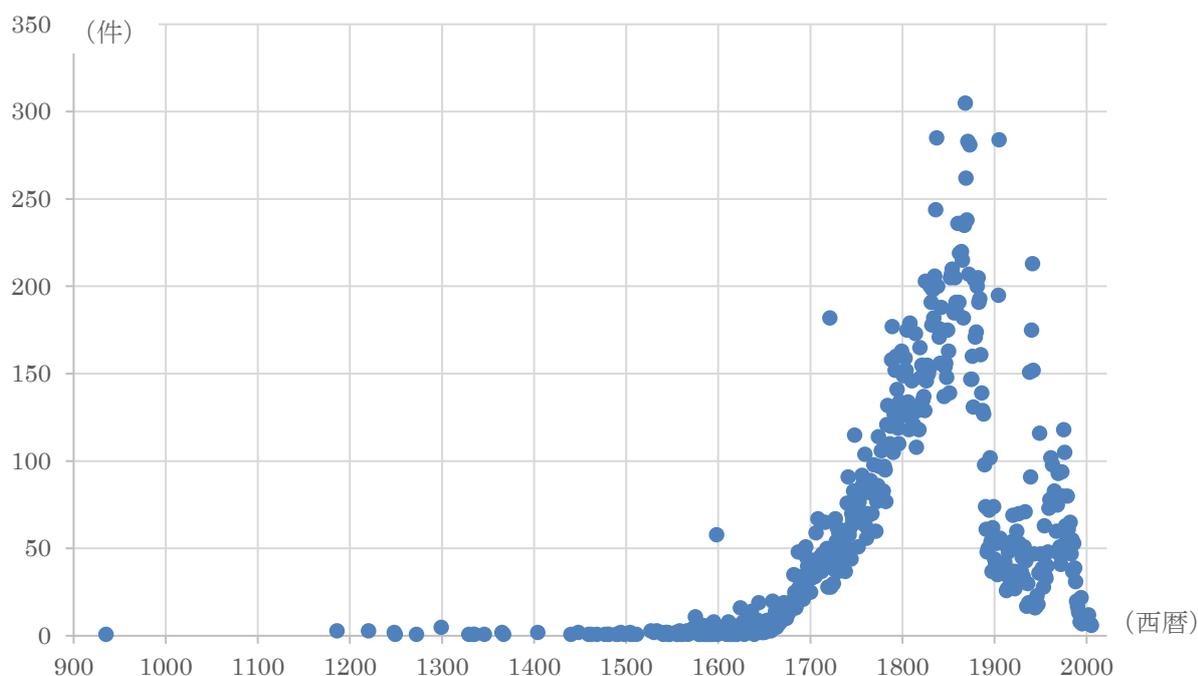


図 28 古文書の年次の分布 (年次が明らかなもののみ集計)

複製本として整理した古文書は、博物館施設で利活用される他、郷土史誌などの刊行物に利用されており、本市の歴史文化を知り、発信するうえで重要な情報源となっています。

しかし、古文書の解読は多くの市民にとって困難であり、また、生活するうえでの重要性・必要性は高くありません。令和2年度(2020年度)の福井県文書館による古文書(原物)の所在確認調査の結果では、現大野市の調査対象数170件のうち、所在が確認できたのは76件であり、残りの94件については不明でした。家屋の取り壊し時や、近年の生活環境の変化による保管場所確保の困難といった家事情による滅失などが報告されています。

③絵画、彫刻、工芸品、書跡

美術工芸資料804件のうち、「絵画」、「彫刻」のほとんどは信仰関連であり、「工芸品」、「書跡」の所蔵も多くは寺社や大野市となっています。これは、資産的価値が高いことから調査の受け入れや公表を困難にしているものと思われます。

ただし、郷土史の解明に有効なものを調査することは有益なことであり、また、所有を明確にさせることで、紛失時の搜索を容易にさせます。所有者の負担は抑えつつ防犯対策の強化を図ることが、本市の歴史文化の進展にとって重要な取り組みとなります。

表 10 所有者別の件数

	信仰・寺社	市	個人	その他
絵画	134件	1件	0件	0件
彫刻	237件	0件	0件	0件
工芸品	62件	1件	6件	2件
書跡	12件	9件	0件	0件

(4) 民俗文化財(有形民俗文化財・無形民俗文化財)

未指定の民俗文化財 133 件のうち、おおよそ 80%にあたる 106 件が無形民俗文化財です（詳細は表 9 を参照）。なかでも食文化が 66 件（無形民俗文化財のうち 62%）と高い数値になっています。

有形民俗文化財、とくに民具の把握数が少ない理由として、日用品あるいは破損などによる不用品として扱われることから、文化財としての認識が得られにくいことが考えられます。しかし、風土に合わせて形が変わるなど、民具にはその土地に生きてきた先人たちの知恵が反映されており、他地区の民具と比較調査をすることでさまざまな情報を得ることが期待できます。

無形民俗文化財のうち食文化が多く把握されている理由として、各地区の地形や風土に合わせ、多様性をもって食文化が形成されてきたこと、かつて和泉地区において民俗調査が盛んに行われていたことが挙げられます。

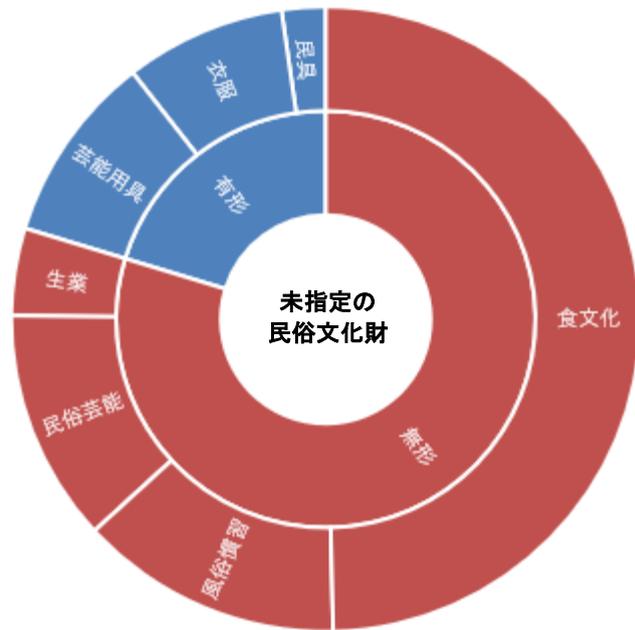


図 29 民俗文化財の各分類の割合

(5) 記念物・化石

白山の西側に位置する本市は、中竜鉦山跡（和泉地区）やおもだに面谷銅山跡（和泉地区）をはじめ多くの鉦山が開発されており、幕末から近代にかけての大野の発展を支えていました。鉦山と大野市とのかかわりについては、平成 18 年（2006）に大野市歴史博物館で特別展を開催した際に鉦山跡を中心に調査を行いました。所在を把握するにとどまっています。

鉦山町として集落が誕生した金山（阪谷地区）では、鉦山開発に特化した集落の経営体制が採られていた他、周辺集落との関わりも独特な規則が設けられており、鉦山に対する調査研究は、社会的にも広がりを見せるものです。

また、大野の地質の特徴に「化石」があります。明治 15 年（1882）、下山（和泉地区）で国内初となるジュラ紀のアンモナイト化石が発見されました。また、平成 8 年（1996）には、下半原（和泉地区）で国内最古級のティラノサウルス類の歯化石が発見されています。

本市では長らく民間愛好家を中心に化石の調査研究が進められていましたが、中部縦貫自動車道の整備が本格化することを受けて、平成 25 年（2013）3 月に、長期的かつ総合的見地に立った化石の保全と活用を図るためのマスタープランとして「大野市和泉地区化石保全活用計画」を策定しました（令和 6 年（2024）4 月廃止）。平成 27 年（2015）11 月には、福井県立恐竜博物館と「化石および地層地質の共同調査等に関する協定」を締結し、共同調査などにおける事業展開及び情報共有について、相互に協力



写真 17 エピストレノセラスの化石

することとしました。また、これに先駆けて、同年4月に和泉郷土資料館をリニューアル改修し、化石の情報発信を行っています。

平成27年（2015）以来、化石の新発見が続いており、その発表状況は表11のとおりです。

表11 平成27年（2015）以降の新発見化石の発表

白亜紀前期 手取層群		
トリティロドン類	平成27年（2015）報道発表	令和2年（2020）論文発表
コリストデラ類	平成28年（2016）企画展	令和2年（2020）論文発表
鳥脚類恐竜イグアノドン類の歯	平成29年（2017）企画展	令和2年（2020）論文発表
トカゲ類	平成29年（2017）企画展	令和2年（2020）論文発表
真骨魚類	平成29年（2017）企画展	令和2年（2020）論文発表
硬骨魚類（シナミア）	平成29年（2017）企画展	令和2年（2020）論文発表
鳥脚類恐竜の足跡	平成29年（2017）報道発表	令和元年（2019）論文発表
カメ類（マンチュロケリス）	令和元年（2019）企画展	令和2年（2020）論文発表
二枚貝（イガイ類、ユキノアシタガイ類）	令和元年（2019）企画展	
植物（鱗片葉球果類）	令和元年（2019）企画展	令和2年（2020）論文発表
哺乳類（真三錐歯類）	令和3年（2021）報道発表	
小型巻貝（プロバイカリア・オオクライ）	令和6年（2024）報道発表	令和6年（2024）論文発表
ジュラ紀後期 長野頁岩層及び相当層		
アンモナイト（サブディスコスフィンクテス）	平成30年（2018）企画展	平成31年（2019）論文発表
アンモナイト（ペリスフィンクテス科、クラナオスフィンクテス亜属）	令和5年（2023）報道発表	
ジュラ紀中期 九頭竜層群		
アンモナイト（エピストレノセラス）	令和3年（2021）報道発表	令和3年（2021）論文発表
二枚貝（トリゴニア類）	令和3年（2021）企画展	
オウムガイ（シュードアガニデス）	令和3年（2021）企画展	
二枚貝（プラヴァムシウム）	令和6年（2024）学会発表	

(6)その他(景観・清水)

①景観

平成19年（2007）5月に策定した「大野市景観計画」では、市全域を景観計画区域と定め、歴史的資源を保存・継承するとともに、歴史の積み重ねが感じられる街並みづくりを進めることとしています。文化財としての保護の取り組みはまだ始まっていませんが、「おおの遺産」の景観分野として「^{ぎょうにんいわ}行人岩」（下庄地区）を認証し、歴史を基盤とした景観の保全（継承）に対しての支援を行っています。

また、環境省が実施した全国星空継続観察において、本市は2年連続（平成16年（2004）大矢戸区、平成17年（2005）南六呂師区）で「日本一美しい星空」に選ばれています。この^{ひかりがい}光害の影響のない、暗く美しい夜空を保護・保存することを目的として、令和5年（2023）8月に南六呂師エリアが、光害問題に取り組む世界最大のNPO団体「ダークスカイ・インターナショナル」が認定する「星空保護区(R)」

の認定を取得しました。認定部門は、「アーバン・ナイトスカイプレイス」で、この部門での認定はアジア初となります。



写真 18 おおの遺産「行人岩」



写真 19 南六呂師地区に設置された光害対策モデル灯

③ 清水

本市では、大野盆地を囲む山々を水源とした河川や良質で豊富な地下水などの豊かな水資源の恩沢を受けた暮らしが営まれ、農業をはじめさまざまな産業や文化、伝統など独自の水文化を育んできました。

本市では湧水地を「清水」と呼び、名水百選「御清水」(大野地区)をはじめ、陸封型イトヨ生息地の南限地であり、また、戦国時代に金森長近が大野城下町を整備するにあたり城下町の水源地となった「本願清水」(国指定天然記念物・平成の名水百選)「本願清水イトヨ生息地」(大野地区)などが点在しており、市民が「水」に親しむ場所となっている他、大野の景観を特徴づけてもいます(詳細は表1を参照)。



写真 20 御清水

4. 埋蔵文化財

本市には、161カ所の埋蔵文化財包蔵地が所在します（詳細は資料編15を参照）。このうち、右近次郎遺跡（小山地区）のように遺跡の内容が判明している遺跡もありますが、図30のとおり、市域に所在する埋蔵文化財の70%は必ずしも内容などが明らかでない遺物散布地です。埋蔵文化財包蔵地内において開発行為などが行われる際には、試掘調査などにより、順次、遺跡の内容の把握や解明を行う必要があります。

また、地区別の埋蔵文化財分布を見たとき、上庄地区の38遺跡を筆頭に、小山地区（30遺跡）、下庄地区（30遺跡）、乾側地区（26遺跡）となっており（図31）、地区ごとでの埋蔵文化財件数に多寡が認められます。これは、各地区での調査密度の度合いや地理的環境などが大きく関係していると見られます。

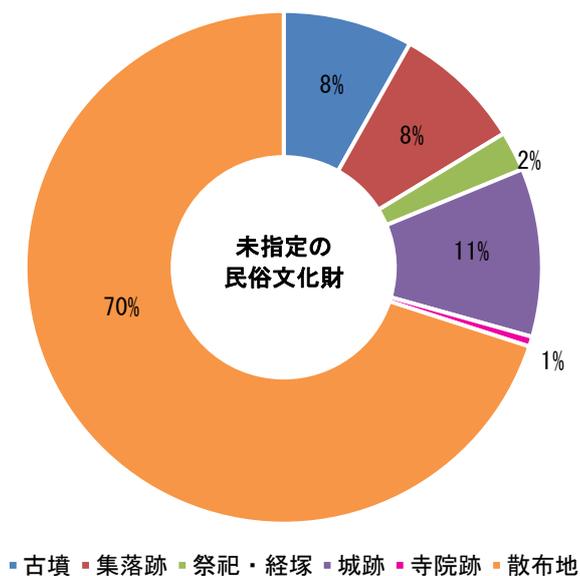


図30 埋蔵文化財包蔵地内訳

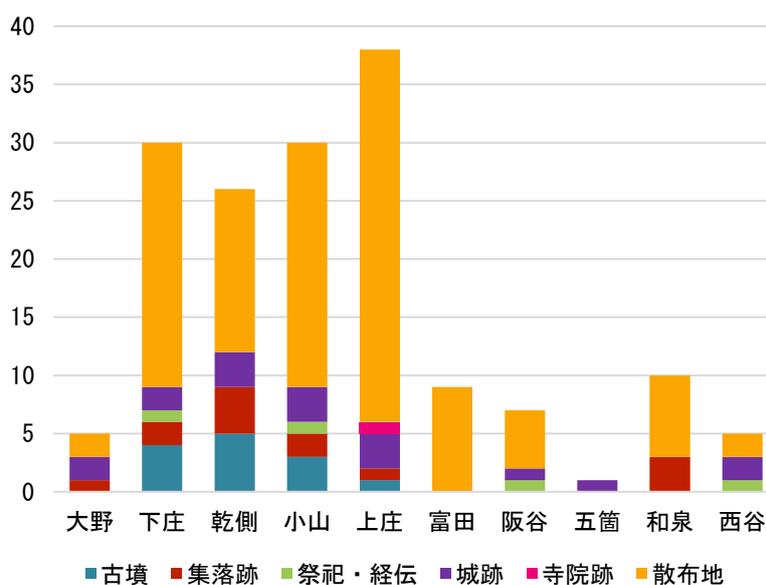
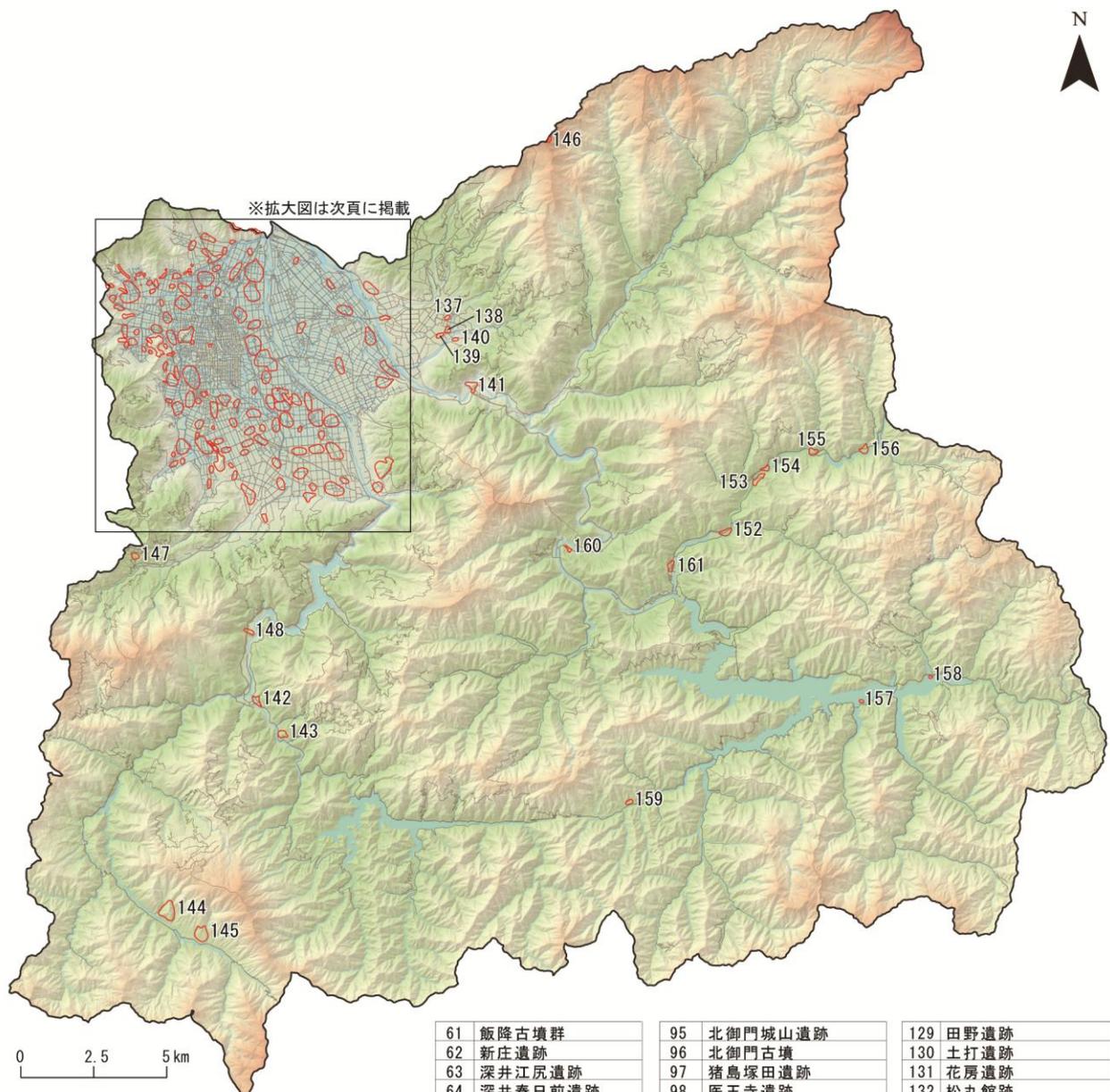


図31 地区別埋蔵文化財件数

※図30・図31では、複数の地区にまたがるものについては反映していません。



1	大矢戸古墳
2	大矢戸遺跡
3	小矢戸九紋目遺跡
4	太田・小矢戸遺跡
5	太田山下遺跡
6	御茶ヶ端古墳群
7	御茶ヶ端城跡
8	目録古墳群
9	矢前田遺跡
10	城目古墳群
11	矢西畑遺跡
12	山ヶ鼻古墳群
13	六反田遺跡
14	東稲場古墳群
15	中大門遺跡
16	天神堂遺跡
17	尾永見遺跡
18	庄林西小柴遺跡
19	庄林深見遺跡
20	下荒井城跡
21	磐座神社遺跡
22	西大月遺跡
23	南新在家縄手遺跡
24	中津川黒之上遺跡
25	南新在家松本遺跡
26	森目遺跡
27	富島遺跡
28	牛ヶ原城跡
29	稲荷山古墳群
30	坂戸下遺跡

31	坂戸遺跡
32	花山古墳群
33	滝本遺跡
34	寺町遺跡
35	下田遺跡
36	矢狭間遺跡
37	西市遺跡
38	中野遺跡
39	庄林大尾遺跡
40	庄林広繁遺跡
41	中津川阿弥陀遺跡
42	下丁遺跡
43	丁古墳群
44	中丁堂ノ下遺跡
45	中丁乘末遺跡
46	中丁堂明下遺跡
47	大山村下遺跡
48	縄境遺跡
49	犬山遺跡
50	大野城跡
51	犬山古墳群
52	戌山城跡
53	上丁畔遺跡
54	上丁菜原遺跡
55	清滝遺跡
56	西方寺城跡
57	土橋城跡
58	鎌掛東山遺跡
59	鎌掛穴田遺跡
60	飯降遺跡

61	飯降古墳群
62	新庄遺跡
63	深井江尻遺跡
64	深井春日前遺跡
65	右近次郎桜町遺跡
66	右近次郎西川遺跡
67	右近次郎遺跡
68	春日野遺跡
69	南春日野遺跡
70	大桜遺跡
71	下古荒井遺跡
72	下古三ツ塚古墳群
73	下舌遺跡
74	下黒谷遺跡
75	下黒谷経塚
76	上黒谷大門遺跡
77	上黒谷重馬遺跡
78	上舌遺跡
79	御城跡山古墳群
80	山城城跡
81	千歳遺跡
82	阿難祖地頭方藪田遺跡
83	茶白山城跡
84	阿難祖領家岸ノ下遺跡
85	横枕遺跡
86	友江遺跡
87	中保坪ノ内遺跡
88	中保小政戸遺跡
89	菖蒲池遺跡
90	吉遺跡
91	下掘遺跡
92	下掘新堂野遺跡
93	中掘西川遺跡
94	西掘遺跡

95	北御門城山遺跡
96	北御門古墳
97	猪島塚田遺跡
98	医王寺遺跡
99	小山城跡
100	北御門高土井遺跡
101	森政地頭塚ノ上遺跡
102	千歳南田遺跡
103	阿難祖地頭方平田遺跡
104	阿難祖地頭方柴桑遺跡
105	榎観音堂遺跡
106	榎遺跡
107	中掘嶋林遺跡
108	中掘江添遺跡
109	中掘遺跡
110	下郷遺跡
111	森政地頭門前遺跡
112	友兼遺跡
113	御給遺跡
114	開発遺跡
115	東山遺跡
116	稲細鉤折遺跡
117	野中遺跡
118	五条方遺跡
119	掘遺跡
120	木本大塚遺跡
121	木本大袖遺跡
122	西山一ツ屋遺跡
123	西山宮ノ下遺跡
124	岩田遺跡
125	平沢領家遺跡
126	今井遺跡
127	神明山城跡
128	佐開遺跡

129	田野遺跡
130	土打遺跡
131	花房遺跡
132	松丸館跡
133	七坂遺跡
134	新塚原遺跡
135	下唯野遺跡
136	蔵生遺跡
137	衰道遺跡
138	落合遺跡
139	伏石遺跡
140	中谷遺跡
141	勝原城跡
142	下秋生遺跡
143	独小山城跡
144	温見遺跡
145	温見経塚
146	経ヶ岳経塚
147	宝慶寺
148	下笹又城跡
149	牛ヶ原城跡 (三社之城跡)
150	春日山城跡
151	明倫遺跡
152	後野遺跡
153	角野前坂遺跡
154	朝日前坂遺跡
155	三面遺跡
156	小谷堂遺跡
157	持穴遺跡
158	下半原遺跡
159	中伊勢遺跡
160	下山遺跡
161	貝皿遺跡

図 32 埋蔵文化財包蔵地 (全体図)

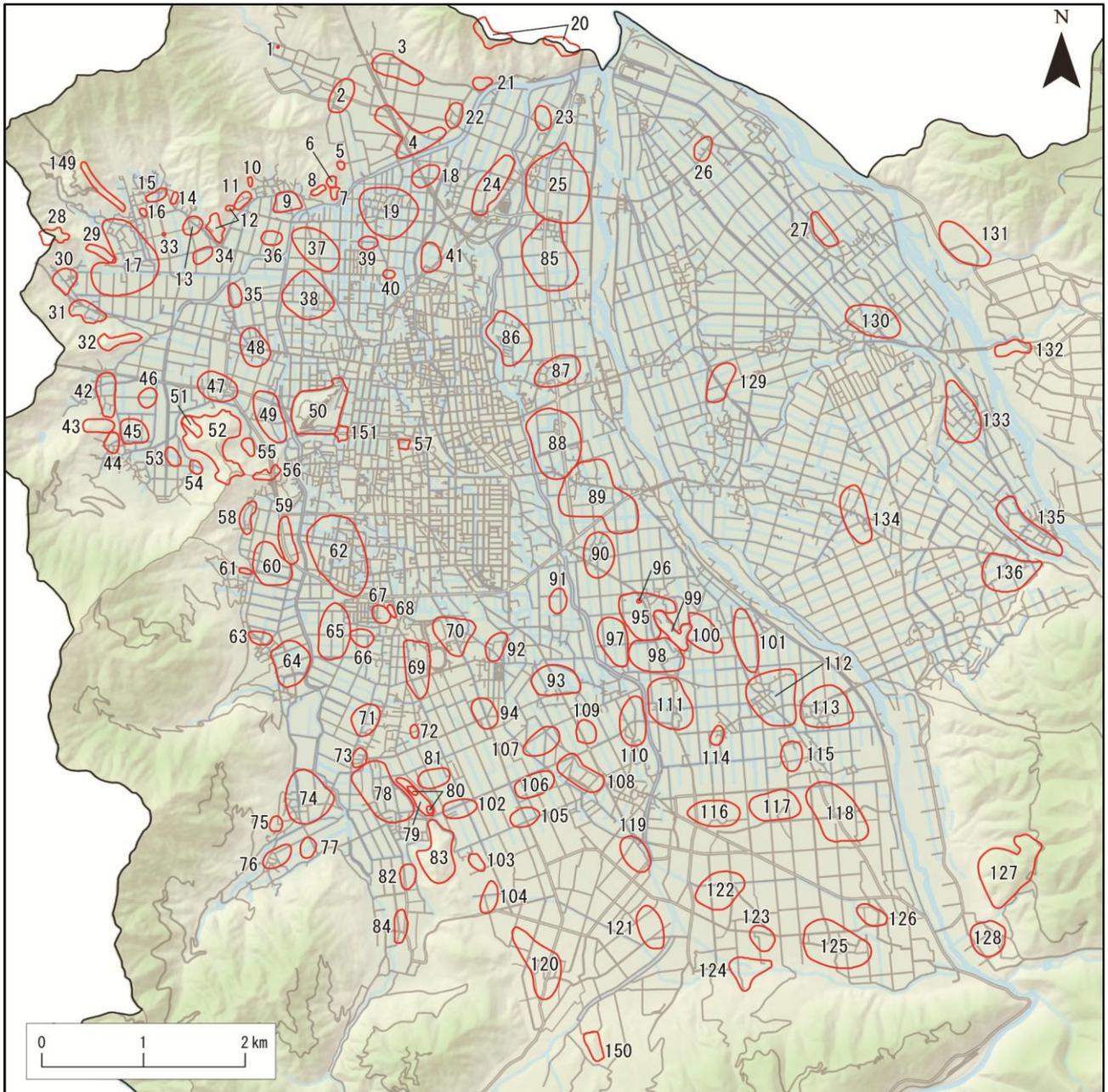


図 33 埋蔵文化財包蔵地（拡大図） ※番号は図 32 下方を参照

第2節 歴史文化の特徴

大野市地域計画における歴史文化の特徴とは、多種多様な本市の文化財とその歴史的背景、そしてそれらを取り巻く環境の総体を意味します。豊かな自然環境に恵まれた本市には、地質時代から現代に至るまで、各時代における多くの歴史的な事象が積み重なっています。本市の歴史文化を語る上で重要な各時代のキーワードを、次ページのように整理しました。



図 34 大野市の歴史を示すキーワード

第 2 章にまとめた本市の自然・歴史・社会環境といった地域性や、歴史を示すキーワード、そして本章前節で整理した各種文化財を踏まえると、歴史文化の特徴（＝大野らしさ）は、図 35（次ページ）のとおり 5 点に整理することができます。これらの特徴は、文化財の保存・活用の取り組みや体制確立、計画期間中に実施する具体的な措置の基盤となるものです。また、市民が大野の魅力と文化財の価値について再認識するための拠り所となるものです。

歴史文化の特徴		
①	人と地域がつなぐ 「交流の文化」	大野では縄文時代以降、各地と交流しながら人々が暮らしてきました。中世以降は街道を通じて、人と物資の往来も盛んに行われました。江戸時代後期には、土井利忠などの取り組みにより全国各地との積極的な交流が行われました。
②	戦時の城から 泰平の大野へ 「城・城下町の文化」	金森長近は大野城を築城し、城下町を整備しました。大野藩の成立後も、大野城を中心に城下町が発展し、奥越地方における商工業と文化の中心地となりました。
③	今も息づく 「祈りと祭りの文化」	大野では古くから山岳信仰が息つき、鎌倉・室町時代以降はさまざまな信仰形態が誕生しました。まちと村では、豊作と安全を願う中から生まれた祭礼・芸能が今も受け継がれています。
④	自然と共に生きる 「暮らしの文化」	山地や河川、湧水などから、豊かな自然の恵みを享受し、時に雪害や風水害などの災禍を乗り越えてきた経験は、大野の生活に息づいています。
⑤	大野に残る 「太古の記憶」	地形や化石には、大地の成り立ちを示す太古の記憶が刻まれています。山地と河川が紡ぐ豊かな自然環境は、大野の歴史文化の基盤であり、美しい自然景観を生み出しました。



図 35 歴史文化の特徴 概念図